

名古屋の山車や空襲を題材にドキュメンタリーを制作してきたグループ「名古屋活動写真」が、かつての名古屋城と城下町での暮らしぶりを証言で振り返る「名古屋城物語」の制作を始めた。空襲で焼け、戦後に再建されたこの地の象徴的存在の名古屋城。代表の森霧さん(仮名)も名古屋市中区―は「記憶が途絶える前に記録し、若い人に面白く伝えられる映画にしたい」と話す。

「子どものころは運動場みたいになっててね、よく乗馬の練習をしました」。七月末の炎天下、城を背に同市中区で老舗料亭「つたも」を営む深田正雄さん(仮名)が、森さんのカメラに向かって笑顔で振り返った。

陸軍第三師団の司令部が置かれ、城内を馬が闊歩していた。江戸時代初期に完成した木造の天守閣は、一九四五年五月の空襲で焼失。戦争から十四年後に鉄筋コンクリートで再建された。作品は第二次大戦前後を中心に往時の姿を証言で浮かび上がらせるのが狙いだ。

昨年から今春にかけて制作した名古屋空襲をめぐる証言映画の取材が、構想のきっかけになった。九十人ほど

名古屋城の記憶紡ぐ



料亭「つたも」の深田正雄社長(右)にインタビューする森霧さん(仮名)も名古屋市中区の名古屋城で

から取材したところ、空襲で城が焼け落ちる姿を悲しむ人が多く、森さんは「私の世代もほとんど知らない。記憶が途絶える前に昔の名古屋城を記録したいから撮影を始めた。」

地元グループ 証言集め記録映画制作中

名古屋空襲 1942(昭和17)年、米軍が軍需産業の集積地だった名古屋を狙って約50回、繰り返した空襲の総称。7858人が死亡し、1万378人が負傷したとされる。最も被害が大きかったのは45年6月9日の熱田空襲で、2068人が犠牲となった。

これまで三人に取材し「小学校のころ城を描く写生大会があったが、作品は『スパイ行為』として軍に没収された」という話も聞いた。

森さんは「いまは城が博物館のようになっているが、作品では市民の暮らしの中にあつた城の姿を描きたい」と話す。

戦前の姿を記録した写真や8ミリフィルムなども作品に取り入れる予定で、証言をしてくれる人や資料を募集中。問い合わせは名古屋活動写真(電話052(581)1201)。



42(昭和17)年、米軍が軍需産業の集積地だった名古屋を狙って約50回、繰り返した空襲の総称。7858人が死亡し、1万378人が負傷したとされる。最も被害が大きかったのは45年6月9日の熱田空襲で、2068人が犠牲となった。